

2024. 5. 6 出合いはつながる

年長の女の子3人が園庭で遊んでいると、園庭の隣にある義務教育学校の校庭の方を指さし、「あそこピンクの花がいっぱい咲いている！」とつぶやいていました。

そこで、教師も含めて何人かで近くへ見に行きます。ツツジの花です。

「これ蜜が吸える花だよ！」とS子が言います。すると「どうやってすうの？」とT子。T子にとってはツツジの蜜を吸うのは初体験。お互いに教え合って吸っている姿が見られます。

するとM子が「他のみんなにも教えてあげなくちゃ！」とテラスで遊んでいた年少の子供たちや先生、園庭で遊んでいる年長・年中の子供たちにも伝えにいきます。すると、その噂を聞いてやって来たY男も吸い始めます。すると「この真ん中の棒みたいなのもってしまうと甘くないよ」とつぶやきます。そして、その横のT男は「上に咲いているやつのほうが甘かったよ！」と気付きます。さらには「チョウチョもこの蜜吸うのかな?」「これならおいしいよね」と子供たちのつぶやきがいろいろ聞こえてきました。

人が増えるとそれだけ気付くポイントは多様になっていくのが面白いです。

好きな遊びの時間の後の「みんなの時間」でM子とK子がみんなにツツジのことを紹介しました。棒をとったらおいしくないこともY男はつけ足します。Y男の話を踏まえて教師は「この棒ってなんなんだろうね?」とみんなに投げかけました。すると、「もしかしておしべ?」とつぶやきが聞こえます。チューリップの花が咲いた時、みんなで花の中を見て「おしべ」と「めしべ」の存在は全体で共有しました。そこがつながってきます。「でもめしべがないよね?」とY男。チューリップのめしべは真ん中に太い棒状のものでした。教師も「うーん、みんな細い棒だよ。めしべはないのかな?」と一緒に考えます。そうしている間に、子供たちから「ぼくも吸ってみたい!そこへ行きたいな!」という声が多く出てきて、みんなで行ってみようということになりました。S子は「はい、みんな私の前に並んで!案内するよ!」と先頭をかって出ます。

ツツジの場所に着くと、みんな思い思いに吸い始めます。M男は「これめっちゃうまい!」と目をキラキラさせていました。「たくさん取って、一緒に吸ったらジュースみたいになるかな?」と新たなアイデアも聞こえてきます。するとY男が、「先生、この棒、一個だけさきの色が違うよ!」と教師に言いに来ます。よく見ると数本ある棒のうち、太さはどれも一緒ですが、先の部分が微妙に違います。「これがめしべじゃない?」。出合いが知識と合わさりながらつながっていきます。

吸ったツツジの花びらはみんな持ち帰り、「色水遊びで使おう!」と楽しみにする姿も素敵でした。

ツツジの花の周りには小判草、カラスのエンドウなどもあり、子供たちの興味はさらに広がっていきます。「このお豆って食べれるの? (カラスのエンドウ)」「この草、振るとカラカラ音がするよ! (小判草)」「赤い実を見つけた! (桜の木の実)」「あそこに紫の花がぶら下がってる! (藤棚)」子供たちの周りには面白い、不思議なものがいっぱいです。

今しかできない出合い、この時だからこそ味わえる感動があるんだと改めて感じました。そして四季折々の自然から感じ、学ぶことは本当に多く、またそれは知識としてもつながっていくことにも感動しました。

幼児教育の生活の中で子供たちなりに出合い、様々なものに触れていきながら、体験を通した感動や様々な事象や経験とのつながりが育まれていくように、保育を進めていきたいです。

